

みうらトーク&トーク 平成 22 年度第 5 回

日 時 平成 22 年 10 月 19 日（火）

19 時 30 分～20 時 30 分

参加者 一般応募者 10 人

テーマ 「ごみの減量化・資源化」



< 市長あいさつ >

市長

皆さんこんばんは。

今回のごみの減量化や資源化は非常に大きなテーマです。今は各自治体でごみ処理に関する経費として膨大な費用がかかっている、いかにごみを減らそうかということで取り組んでいます。

三浦市は、自前で焼却施設を持っていないという特殊な事情があるので、現在横須賀市と広域的なごみ処理の実現に向けた準備をしています。当初は鎌倉を含めた鎌倉、三浦、横須賀、逗子、葉山の広域での処理を目指しましたが、個々の自治体に色々な事情があり、結局横須賀市と三浦市だけになってしまいました。そのような色々な事情もあり、ごみ処理に関しては市民の皆様からご協力をいただかないと、役所だけでやろうと思っても実現できないものですから、ぜひ良いお知恵を拝借して、これからの行政の課題の参考にさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

< 担当課による情報提供 >

< 意見交換 >

市長

今ざっと説明をさせていただきましたが、税金でごみ処理をしているので、処理単価は安いほど良い話です。他都市では、家庭から出る一般ごみについても有料化の動きがあります。例えば大和市はごみを出す袋を買っていただいて、そこにごみを入れ、庭先に置いておけば個別に収集するという手法をとっています。私の考え方は、皆さんから税金をいただいている、「ごみを絶対に出さない」なんて方はいらっしゃらないので、やはり処理費は税金で補うべきだと思っています。ご商売のごみは事業系のごみなので、当然処理の費用を払っていただきますが、一般家庭のごみ処理を有料化するという考えは、今は全くありません。ただ、

あまりに経費がかかると、他の事業に影響することもあります。

処理費用は重さが基準なので、水気がちょっとでも多いとその分加算されてしまいます。環境センターで一旦は水切りをしますが、それでも処理しきれないことが多いので、家庭でのごみの減量や水切りをお願いをしています。出前説明会として各自治会で説明もしています。それが完全には浸透していないので、実際にこういう場で情報をいただきたいと思います。

市民 三浦ではスカベンジという形で市民がごみを集めています。私も参加していますが、タバコの吸い殻、プラスチック、ペットボトル、空き缶が非常に多いです。これについては製造元にも、「処理費用も一部負担してくれ」とか、「捨てられないものにできないか」という相談をする必要があると思います。要するに出たごみの処理だけではなくて、元から断つお願いをすることも必要だと思います。ごみのかさでいえばプラスチックがかなり多いと思っています。これもごみ拾いだけでなく、製造元あるいは流通にもう少し、「どうにかしてほしい」というお願いをする必要があると思います。

生ごみですが、神戸市では生ごみを発酵させてアルコールを作り、それでバスを動かしているという話を聞いたことがあります。生ごみを焼却炉で燃やすのは確かにエネルギーがたくさん必要なので、燃料にして、例えば車を動かすなり、他に回すことも考えられないかということも思うところです。

その他に、「ごみはいくらでも引き受ける」ではなくて、一程度制限して、ここまでは無料でこれ以上は一部有料という方策も、検討の余地があると思います。それとこれは横浜市金沢区でやっていたことですが、地域の自動販売機で売る缶ジュースなどにシールが貼ってあって、そのシールがついた空き缶を空き缶処理機に入れると 10 円戻ってくるというデポジットというやり方をとっています。これは限定された地域では使えるかもしれません。

市長 貴重なご意見をいただいたと思います。

資源化は大きな課題です。三浦市では毘沙門に野菜の残さを処理してエネルギーに転換する「バイオマスセンター」という施設を作り、今度稼働します。再資源化のコストが焼却コストに比べ膨大な額になってしまうのが大きな課題です。

今、仰られたことの趣旨はよくわかります。一程度は無料で、それを超える部分は有料というのは非常に良い手法かもしれません。

市民 「お金がないから」という話は確かにどこでもありますが、「お金がないからやらない」ではなくて、もう少しやり方があるのではないかと思います。

四国の方で「ごみゼロ」という取り組みを行なっている地域があります。やはり

市民が協力しています。そういうことはお金がなくてもできます。

それと、デポジット方式の話が出ました。茅ヶ崎で以前からやっていますが、小学生が道路に落ちているごみを拾って帰り、それを学校で処理をすると、学校に施設ができるということです。そういうことを、もう少し学校教育の中に入れてもいいじゃないかという気がします。学校の先生も忙しく、大変でしょうが、大きな長い目で見ると、そういうところに力を入れていくことは、市の財政難でもいいのではないかと思います。

それから広域の問題で、逗子は自分たちのところで努力しようとしています。それが三浦でもできないのかなという感じがします。

三浦はもう少し市民の協力を得やすいやりかたをしていく方がいいと思います。それと、当初の分別の仕方から変わってきています。その変わった内容を、全戸配布で知らせて欲しいです。皆さん間違っていることが多いので。

市民 バイオマスセンターは経費がかかり過ぎますよね。大きい都市ではコストが低くなるかもしれないけど、今の三浦市の現状では大変なコストになると思います。それよりも前に、今、仰っていましたが、三浦市民の意識を高める努力をするのもひとつの方法だと思います。子供むけに学校に出張するとか、保護者も先生も一緒に意識を高めていくことも必要だと思います。

商売をやっている方たちにもその意識を高めてほしいです。というのも毎月うりから岸壁を清掃していますが、発砲スチロールと塩ビの値段が高い時にはごみで落ちていません。高くなってきたときにそれが消えました。

ごみを収集していると、時代や、観光客がいかに来ているかがわかります。観光客の皆さんが色々なイベントで来られると、そこで買ったものをそのまま放置していかれるわけです。市から「皆さんごみは持ち帰ってください」と一声かけていただきたい。私も釣りの方たちに話しています。「ここは三浦の海の玄関です。皆さんも、ご自分の家の玄関によその家のごみが捨ててあったら気分が悪くないですか」と。それでもごみは出ますが、続ける努力が必要だと思っています。

6月でしたか、「ごみを出していった人への罰金はいくら」という黄色い看板を市が出されましたよね。私どももいただいて、管理する建物の両面に置きました。釣りの方がかなり来ますが、その方たちが一目見て、「気をつけよう」という気持ちになってくれるので大変効果があり、素晴らしいと思います。家庭の中でもそうですが、意識をみんなで変えていくことが一番大切ではないかと思います。

市長 他の方、いかがですか。

市民 コンポストについて、横浜市の場合は援助がありますが、三浦市はありますか。

- 職員 生ごみ処理機の購入に対して補助金を出しています。電動式には上限 35,000 円、非電動式には 3,000 円を出しています。今年度まだ枠があります。
- 市民 機械全部の費用のうちどのくらいの割合でしょうか。
- 市長 電動式は 7 ～ 8 万します。私も買いました。自分で補助をもらうわけにはいかないので自分で買いました。あれは便利ですね。
- 市民 そういうことをもっと P R したほうがいいのではないのでしょうか。
- 職員 『三浦市民』という広報紙でお知らせしています。ホームページにも掲載しています。それと、今度の市民まつりで実物を展示しようと考えています。
- 市民 家庭では色々のごみが出ますよね。だから畑に持っていくごみ、生ごみ処理機に入れるごみ、ポリに入れて出すごみ、それから三角コーナーで水を切らなくてはいけないもの、と色々分けています。例えばお茶がらでも必ず絞って、それから生ごみ処理機に入れるとか、三角コーナーに入れてあっても最後にごみに出す時には絞って入れる。ごみって自分で出したものだから、そんなに汚くありません。それがお金だと思いながらやっています。
- 意識づけという話がたくさん出ていますが、大事だと思います。ビニールを洗って干しますよね。わが家ではハンガーを流しのそばに置いておいて、洗ったものを洗濯バサミで留めてあります。格好は悪いけど。雨の日には新聞を入れるビニール袋がごみで出ますよね。それもごみにしないでごみの袋に使うとか、そういう知恵を皆さんたくさん持っているのではないかと思います。そういう知恵を『三浦市民』に掲載したら良いのではないのでしょうか。
- 市民 市民から言った方が役所から言われるより良いですよ。
- 市民 たくさん出てくるんじゃないかと思いますね。
- 市民 ひとつ質問ですが、うちで草や木が出ますが、減量化という意味でもすぐ袋に入れないで干していますが、それでいいのでしょうか。
- 市民 関連して。燃すと確かに匂いや風で汚れたり、弊害もたくさんありますが、場所によっては弊害が 9 割くらい無いだろうと想定される場所もあります。だから燃

すことの幅、このくらいならいいよという線引きがすごく難しいと思います。

職員 枝木の件ですが、草の場合水分が多いので、収集日の一日前くらいに袋に詰めていただければそれが一番良いと思います。回収した後もやはり乾かして発酵させるという方法をとっていますので。

市長 枝木は自前で処理できないので、業者に依頼してたい肥にして持ってきてもらい、無償で配布しています。バイオマスセンターでもたい肥化の施設ができますが、それは有料でお分けしようと思っています。

職員 次に屋外燃焼行為についてですが、廃棄物処理法にも規定されておりまして、それを受けて神奈川県のご生活環境の保全等に関する条例という条例があります。基本的には廃棄物は燃してはいけなく、焼却には基準に適合した焼却炉を使わないうといけなくしているんで、野焼きはできません。ただし法律には、「農業を営むためにやむを得ないものについてはこの限りではない」という例外規定があります。ただし、ビニールなどは燃してはいけません。また、条例には、「みだりに燃してはいけなく」と「みだり」という言葉が入っています。これについて県に確認すると、「人に迷惑をかけるような燃し方はダメ」ということなので、やはり限定されるのだと思います。

市長 農家の方が畑で燃すと、近隣に住宅がある場合も多いので、ちょっとでも煙が出ると市や警察に電話が入ることがよくあります。農業を営むためにやむを得ないもので、人に迷惑をかけない行為は認めましようということになっているようです。農家にはそういう指導がされているということです。

市民 落ち葉を燃す方がいて、その方は「落ち葉だから良い」と言いますが、どうしてもビニールも入ってしまい、洗濯物にペタっとくっついてしまいます。それでよくやり合っています。私も困って、役所に相談すべきかどうかと思うのですが。

市長 お互いにけんかになりますから、市役所を間に入れた方がいいですね。

市民 私の家の四方は畑です。昔はガンガン燃そうが、やりたい放題でした。住人と農家のコミュニケーションがとれていたから、ちょっと燃やしていても「ちょっと煙が来て困るよ」と言うと、農家がセーブする。その位のコミュニケーションがとれました。「かぼちゃ取れたからひとつ食べなよ」「ありがとう」というような人間関係が来ると、抵抗が無いとは言えないけど、それに近くなります。そう

いうコミュニケーションがすごく必要だと私は思います。「ダメだからダメ」と言うのではなくて。農家もそれでご飯を食べているわけですから。最近良くなっていると思うのは、「これから薬まくから洗濯物しまって」と言うのと「分かったよ」とバタバタと窓を閉めています。「暑いね」「寒いね」の挨拶から始まって、収穫物を「これひとつどうよ」とやる。そういうコミュニケーションを通じて、「けむすぎるよ」とか「燃されちゃ困るよ」と言うようになると、燃す方もスムーズに行くと言います。上手くいくことばかりじゃないでしょうけど。

市長

農家の人の意識も変わっていますよね。文句言われることも多いでしょうし。無農薬だけでは三浦の農業は成り立たないので必ず使いますが、昔はヘリコプターで上からまいていました。今はそれありません。

市民

私は生ごみを肥料にして約 150 坪の畑を 10 年やっています。三浦市では昔、岩堂山に燃すところを作っていましたよね。それにもう一回挑戦してもらって、良い肥料を作ったら三浦のブランド野菜ができるのではないかな。私はお店から出る生ごみをもらって、こやしを作っています。ニンジンなんかすごく甘いですよ。

市長

三浦市のごみ政策では、かつて燃やすか、資源化するかという岐路がありました。野上市長の時代でもう 30 年くらい前でしょうか。その時に三浦市はたい肥化、つまり燃やさない選択をしました。ごみ処理施設をひとつ作るには大きな労力がかかります。法的な問題もあります。なかなか地元の合意ももらえません。当時、そういった大きな苦労をして作った施設ですが、資源化の機械も万全じゃありませんでした。

市民

あの都会の鎌倉市でさえ、資源化に向けて進んでいますよね。だからこの片田舎の三浦ならできるのではないかなと思うのですが。

市長

三浦市としても選択する余地は今でもあります。ただ、今の三浦市の財政力だと踏み込めません。5 万人以下の自治体は焼却施設の交付金の対象になりません。自治体の規模によって、かかる費用はそれほど大きく違います。つまり、規模のメリットがないと廃棄物処理施設は負担がかかるだけです。そのため、今三浦市で新たに単独で焼却施設・資源化施設を持つことができません。それで今は横須賀市と「広域的な処理をしたほうがメリットがあるだろう」ということで、三浦市は迷うことなく広域化の選択をしました。鎌倉は資源化施設の研究もしています。ただあれは膨大な費用がかかります。鎌倉市だからできます。三浦市だから私は選択しません。逗子の焼却施設も、葉山

の焼却施設も老朽化しています。

先ほども話しましたが、三浦市のごみ処理は結構一生懸命やっていて、一人当たりのコストを下げてきています。三浦市は市民の皆さんへの意識づけをもっとやらないといけませんが、私はけっこう頑張っていると思います。ただあまりに費用がかかり、なんとか抑えなければいけないので、皆さんのご協力をいただく必要があります。横浜市さんは大きな施設を持っているので、ごみ処理の単価も抑えてくれています。今度横須賀市と広域化になると初期投資もかかるランニングコストも負担が出るので、少し高くなってしまいかもしれません。ただ、それは選択した道なのでもちろんやります。その前にごみを減らすことでお金を減らさなければいけない。お金を減らすためにごみを減らすと思われるのは少し心外ですが、ごみを減らすことは市民負担を減らすことになりますので、相乗効果があります。

市民 さっき良いことを仰っていた「製造元への要請」というのは、現在、行政はどのくらいしていますか。

市長 今のところ、市として製造元へ協力を要請しているケースはありません。おっしゃるような取り組みは環境省の方にしています。

職員 容器包装リサイクル法の対象となっているのは法律で決められたプラスチック製容器などだけです。つまり、これらの容器は事業者にも拡大生産者責任が生じていて再生しなくてははいけません。リサイクルの負担が法律上事業者にも課せられています。ただ、それ以外の「その他プラスチック」と言われているものが全く売りっぱなしで、事業者がリサイクルすることが法律上規定されていないため、その処理を各自治体が全部被っています。それもどうかしてほしいという法律改正に向けて、他の自治体と組織している神奈川県都市清掃協議会で一緒をお願いをしております。

市民 それはぜひ強力に進めてもらいたいですね。

市民 何か買えばごみを買っているようなものですからね。
お土産をもらいますね。まず紐が縛ってある。今度は紙の袋、箱、そして煎餅はひとつひとつ袋に入っている。その中にまた乾燥材が入っている。みんなごみですよ。昔は簡素だったのが、今は7つも8つもごみが付いてくる。

市長 それは本当に大事な話で、市民の皆さんからそういう意見があったということ

公の場でどんどん言っていかなければいけませんね。

市民 今朝ラジオを聞いていて、「ミミズの活用」という話をしていました。ミミズが生たい肥を食べて栄養のあるドロにするとという内容です。総合学習の一環で子供たちが実体験して、自然の環境を保つということを体験学習するということを盛んにやっていると言っていました。確か紀州の方の話だったと思いますが。

市長 三浦市は教育の場に環境教育を取り入れていこうということで比較的他市よりも色んなことをやらせていただいています。前に地球温暖化など全体的な環境政策についてのテーマでトーク&トークをやらせていただいたときに、やはり環境教育は非常に大事だということで、総合学習の中で環境問題やごみ問題をテーマに取り組んでいます。市もいわゆる温暖化対策やごみ問題について、職員が訪問して話をしています。そのような市民の意識を高める努力は今もしていますが、「やっています」と言うだけでは仕方ないので、「数字で示せ」といつも言っています。なので、三浦市ではこれだけごみが減っているということを分かってもらえるようなことをしなくてはいけないと思っています。

市民 去年青少年会館で、そのテーマについて話し合いをさせていただいたんですが、その中で私は学校に「総合学習でどういうことをやっているのか」と聞いてみたら、南下浦小学校ではやっているんですが、三崎小では他のことをやっていて、環境についてはあまりやっていないという話を聞きました。

市長 あれは町の活性化ということで一生懸命やっているんですよ。

市民 各学校に個性を持たせるという話も校長先生から伺っていて、それも分かりますが、環境問題も授業の一環として、各学校で、1週間に1時間でもいいですからやってもらいたいですね。

市民 ごみを拾う人は捨てませんからね。私も子供を連れて海岸を掃除しますが、それをやらせていると子供は汚しません。

市長 色んな学校でそれをやってくれています。初声も三崎も南下浦でも。

市民 金田の子供会は廃品回収をやってくれています。その回収の作業の後のお昼までの2時間をお母さん方がお子さんを連れ連れて海岸を清掃する。子供たちと一部のお母さん方からできる範囲はそれほど大きくないけど、要するに繰り返して

す。廃品回収を 3 回やれば、最低 3 回は海岸清掃をやれているわけです。学校でも必要だけど、地域でもやればできるということです。学校に何でもかんでも持って行っても学校が潰れちゃいます。

さきほど市長が数字で示せとおっしゃったのは、やはり意識づけや結果を我々も求めている、「ここまで行ったのか」と知りたいからです。効果あったなと目にみえるまではなかなか時間がかかるので、方法も難しいと思いますが。

市長 横浜市が中田市長のときに G30 というのをやりました。あれはすごく効果がありました。横浜市のような 350 万、360 万の都市で、少しごみを減らすだけで膨大な量になって、今まで使っていた焼却場を閉めても大丈夫なくらい効果がありました。専門家に言わせると数字のテクニックはあるようですが、市民の意識としてはものすごく効果がありましたね。だから例えば「ごみを 10%削減」とか「20%削減」という目標を掲げて協力を求めるのも一つの手かもしれません。

市民 ぜひやってほしいですね。

市長 それから先ほど仰られたごみの料金を「一定量まで無料で、それ以上は有料」というのは良いアイデアだと思います。

市民 それより有料化にしたらどうですか。ただ有料化にすると市民が怒るから市民税を半分にして。

市長 単に「お金がかかるから有料化」というのはあまりに節足だと私は思います。保険料や利用料などの値上げはさせていただいていますが、ごみは税金をもらっている以上役所がやらないといけないと思います。

市民 『三浦市民』の中に目標欄を作って、そこに市民の目に見えるものを掲載してほしいです。余計な文字はいりません。子どもからこういう話をもらいましたとか、そういうことをちょっと載せていただく。小さいコーナーでもいいから。そうすると、皆さんも「じゃあ私も」とか「じゃあうちの小学校にも来てもらおうか」という思いになる気がします。

市民 良いですね。

市長 それも大きな手段だと思います。

市民 それから、今仰られた子供会の話。三浦市内の子供会のお母さんが忙しいからということで、だいが行事がなくなっています。廃品回収の単価も安くなってしまったのもあります。お母さんたちも「面倒くさい」と、なかなか行事も少なくなって、本当のボランティア精神が少なくなっていると思います。その辺も地区長会にお話していただいて、市からも申し入れて、地区長会の活動を少し増やしてもらうようにお願いしてほしいという気がします。

市長 区長会には何から何まで色んなことを頼んで、「そんなに頼んでこないで」と言われているので難しいかもしれません。

『三浦市民』の中に健康づくりの関係で 1 ページ使っているのをご存知ですか。その効果があるのか、マンネリ化していないかということを担当課に伝えたところ。掲載するのが目的みたいになってしまって、毎月同じパターンで書いてあるから。少し見方を変えなさい、やり方を変えなさいということを行いました。

市民 今の市長の発言はありがたいです。担当している人の意識を変えていって、どうやったら市民がみんなこっちを向くかということです。広報紙も字をたくさん組まなければいけないのでご苦労されていると思いますが、もう一方じゃ仰られたように薄めてさらりと書いた方がいいじゃないかと思うこともあります。それと思ったのは、ごみの減量化で、今月はこれだけ減量化できたというものが数字に出るといいですね。というのも小学生がよくグラウンド何周走った、今日は東海道五十三次で言えば藤沢あたりまでだとか、次は何周走ったから藤沢から小田原まで行ったということで、走ることを奨励しているようなことがあります。それに似たやり方でやっていくと、どこまで減量されたかということが結果の喜びになってくる。広く意識付けするためのひとつの方法ではないでしょうか。

市長 今は前年よりも減らすという目標しかありません。だからどこまで減らすかということを設定するように考えます。

お時間もなくなってきて、お話も尽きなくなってきました。いずれにしても、今日、本当に参考になるご意見をいただいたと思いますので、環境部でこれをまとめ、再度協議をして、具体的な手法についてまた取り組んでいきたいと思います。それでは今後も何かありましたら担当課にお申し付けていただければと思います。今日はありがとうございました。

職員 それではこれにて終了とさせていただきます。ありがとうございました。

公表については了承を得ております。